

山鳥坂ダム環境検討委員会
第2回動植物の保全に関する専門部会
議事概要

日時 平成19年8月30日 10:00~12:30

会場 山鳥坂ダム工事事務所

出席者 (委員) 松山東雲短期大学 松井教授

愛媛大学農学部 山口准教授

樹木医 得居氏

1. 資料-1 これまでの調査結果概要について

- ・ 特に意見はありませんでした。

2. 資料-2 直近に移植する種の移植方法及び試験移植先の圃場整備計画

2-1. 直近の移植計画の方針

- ・ コシロネについては、難しい種ではないので、移植実験を行わなくても、仮移植としたらどうか。
- ・ クマガイソウについては、栽培知見が有るので、不確実性は小さい。
- ・ マヤランは移植を行わないのか。 マヤランは直接改変されないなので、個体の監視のみとする。

2-2. 直近の移植計画対象種の生育状況調査結果

- ・ アカソの同定については実物で確認をしたい。
- ・ 現地で確認されているコシロネについては、建設発生土処理場予定地の水田の周辺に生育しているものは間違いないと思うが、放棄水田の中央にあるものは倒伏していて、ヒメサルダヒコに似るが、全形が大形であり、実物で確認をしたい。

2-3. 圃場適性評価、圃場整備計画

- ・ ゴマギは現在の生育地は、他種との関係で成立しているものであり、適地とは限らないので、増殖地は現状の環境にこだわらず、日照等の生育環境を良くしても良い。
- ・ ムヨウラン及びウスギムヨウランの移植実験での、林相転換は難しいので、土壌条件や水分条件を整えることを第一に検討した方が良いのではないかと。
- ・ ムヨウラン及びウスギムヨウランの移植実験候補地は、候補地1(スギ植林)よりも候補地3(落葉広葉樹林)のほうが適応するのではないかと。今後の工事予定を考えるとどちらも常緑広葉樹林ではないことから、将来的に移植適地として存続できる可能性のある候補地1を林相転換したい。

- ・ 移植に関するデータについては、全て残しておくべきである。

2-4. 移植並びに移植実験及び増殖計画

2-4-1 コバノチョウセンエノキについて

- ・ コバノチョウセンエノキの移植適期は、出芽1ヶ月前の春（3月頃）が良いと考えられる。

2-4-2 アカソについて

- ・ アカソについては、10月頃に種子を採取するのが良い。
- ・ アカソについて、資料では「受精せずに結実」と記載されているが、出典を確認すること。
- ・ アカソについて株分で増殖しても良いのではないか。

2-4-3 ホシクサについて

- ・ ホシクサは8月～10月が花期だと思うが、種子は継続的なので逐次種子を採取すべきである。
- ・ ホシクサの表土まき出しは、8月にまいて4月に発芽するスケジュールが良いのではないか。

2-4-4 カビゴケについて

- ・ カビゴケは、生育基盤のアオキごとの移植であれば、移植適期は3月頃が良いと考えられる。

2-4-5 ゴマギについて

- ・ ゴマギの播種については、とりまきと翌年3月に播種するのと、2種類実施してみるのが良いと思う。
- ・ ゴマギについては、根元付近にある稚樹（苗）を移植する手法もある。
- ・ ゴマギの播種に関しては、前処理としては、果肉をとるぐらいが良いと思う。

2-4-6 全体について

- ・ 移植の際には、灌水の際にオキシベロン等の発根促進剤の使用をしたり、乾燥防止のために寒冷紗を巻くと良い。
- ・ 多年草の挿し芽については、一般論では、ロゼットをつくる多年草は、春から夏にかけて実施すると良い。
- ・ 写真の撮影時には、その種の特徴がわかる部分を記録すること。

以上